

第9回 新宮ダムの堤体挙動等に関する技術検討会 審議結果

日時：平成28年11月24日（木）13:00～15:00

場所：大阪コロナホテル 本館3階会議室310号室

出席：阪田憲次座長、鎌田敏郎委員、河野広隆委員、佐竹正文委員、金銅将史委員、石神孝之委員

※渡辺博志委員は都合により欠席

資料：資料1 議事次第

資料2 洪水吐きゲート操作性について

資料3 堤体下流面の漏水について

審議内容

1. 洪水吐きゲート操作性について

変位抑制工の施工後のモニタリング結果についての審議を行い、次の指導・助言を得た。

ダム軸方向の堤体変位については、プラムライン及びトータルステーションの計測結果から対策工による抑制効果が現れていると考えられる。しかし、対策工以前ほどではないものの昨年より谷側への変位が進行したこと、ゲート隙間が狭まっている箇所があることから、引き続き状況を注視していく必要があるとされた。

また、モニタリングは引き続き実施し、特にひび割れの進展状況を把握して対策工の効果や異常の有無を確認していくとともに、今後は恒久対策等の検討に着手することとされた。

2. 堤体下流面の漏水について

昨年度実施した堤体下流面の漏水対策の施工実績について資料による報告を行った。

3. その他

次回検討会は、平成29年秋に開催を予定することとされた。

以上